

一般社団法人 山梨県木造住宅協会

山梨県木造住宅協会は、山梨県と近隣県の建築事業者で構成されている団体です。会員事業者への情報提供、講習会・勉強会の開催のほか、地域材の流通や地域工務店の活性化を目的に活動しています。

木と人をつなぎ、次世代へと継承するため

一般社団法人山梨県木造住宅協会は、住宅資材である地域材の流通の活性化と、木造住宅の担い手である地域工務店の活性化を目的に、全国2,000以上の工務店や設計事務所が会員となっている一般社団法人JBN(全国工務店協会)の山梨地域の連携団体・山梨県木造住宅協会として、平成22年に発足しました。

地域型住宅ブランド化事業や、会員事業者の技術向上と人材育成のための講習会・セミナー等による情報提供、一般消費者に向けた木造住宅の広報、建材の共同一括購入等による地域材の流通活性化など、地域に根ざした活動に取り組んでいます。

地域型住宅ブランド化事業の取組

地域型住宅ブランド化事業は、地域材を活用し、地域の気候・風土にあった「地域型住宅」の具体像、共通ルールに基づいて、長期にわたって住むことのできる環境に優しい良質な住宅を作るための取組です。

山梨県木造住宅協会が取り組んでいる地域型住宅ブランド化事業「KAIWA(甲斐環)な家」は、山梨県特有の環境に配慮した長期優良住宅。

- 「甲斐環」の名は、山梨県の旧国名「甲斐」にちなんだもので、「会話(コミュニケーション)」や「循環」「環境」「和」などの意味が込められていて、次のような特徴があります。
- ① 夏の気温差が大きく、降雨量が少なく日照時間が長い山梨県の環境に対応。
- ② 東海沖地震・震度6強が発生する事を想定した地震に強い構造。
- ③ 森林率約78%の全国有数の森林県である特色を活かした高品質の山梨県産材を使用。

「KAIWA(甲斐環)な家」は、県産材を積極的に使用することで、地域の林業・木材産業の活性化も目指しています。



第5回 我が家の記念柱伐採ツアー (平成26年10月25日)



伐採木選び(第4回 我が家の記念柱伐採ツアー:平成25年11月3日)

一般社団法人 山梨県木造住宅協会

- 地域型住宅ブランド化事業取組
県産材を使った長期優良住宅「KAIWA(甲斐環)な家」
- 各講習会及びセミナーの開催及び情報提供
JBN省令準耐火構造、省エネルギー講習、IT講習会ほか講習会の開催
- 顧客への周知・認知活動
山梨県木造住宅フェアの開催、施主様との記念木伐採ツアー
- 長期優良住宅の設計サポート
- 各省庁の補助事業案内及びサポート
- 瑕疵担保保険や地盤調査などの団体割引制度の案内
- 建材の共同一括購入
- ホームページ
<http://www.yamanashi-mjk.jp/>
- facebook
<https://www.facebook.com/yamanashi.mjk>



第4回
山梨県木造住宅フェア
(平成26年3月23日)



スギとヒノキの葉の違いを比べる
(県産材流通基本講義)



丸太の説明を聞く(県産材流通基本講義)



県産材流通基本講義(平成26年12月5日)



山梨県木造住宅協会は、地域の森林組合とともに
山梨県産材の普及に取り組んでいます。



地域材担い手セミナー(平成25年10月)

将来に向けて

今後は一般ユーザーに山梨県産材の良さを伝え、使って貰えるよう一層の広報活動に取り組むとともに、少数数の工務店が地域型住宅の建築を手がけることができるようにサポート体制の充実に努めることで、木と人をつないでいきたいと考えています。

一般消費者に向けた木造住宅の広報

地域材の積極的な活用を目指し、山梨県木造住宅協会では「山梨県木造住宅フェア」や「我が家の記念柱伐採ツアー」、現地見学会等の一般向けの広報活動も積極的に開催しています。「我が家の記念柱伐採ツアー」は、施主に木を切るところから家づくりに関わって貰うための取組です。自宅の柱として使うヒノキ材を実際に立木を見て選んで貰い、製材までを見届けて貰った後、山梨県産材であることを認定したラベリング材として住宅建築時に引き渡すというイベントで、家造りの記念として好評を博し、昨年10月には第5回を開催しました。

会員事業者の技術向上と人材育成

長期優良住宅法の制定や省エネルギー法の改正などにより、木造住宅業界は技術的・制度的な要求が高まっています。しかし、そうした変化に地域の工務店が個々に対応することには限界があります。

全国で地域材を使用した公共建築物の木造化が進む中、山梨県では県産製材品による公共建築物の木造化や、県産材を使用した木造住宅の建築例が少ないのが現状です。これは県産材に関する情報や流通量が少ないことが原因のひとつだと考えられます。県産材の利活用を促進するためには、県産材の特性に精通し、地元の大工技術で建設できる建物の設計・施工ができる木材利用産業の担い手を育てていくことが必要です。

そこで山梨県木造住宅協会では、時代のニーズに組織として取り組むことを目指し、中小の地域工務店を対象に法律の改正や技術に関する様々な情報を提供するとともに、「木のまち・木のいえ担い手育成拠点プロジェクト」をはじめ、工務店の技術力を高めるために会員相互がひざを詰めて語る「ひざ詰懇親会」や、県産材の利用促進のための各種セミナー等の開催、新しい制度に対応するためのアドバイスなども行っています。